



## 管内英語授業づくりプロジェクト研修

11月17日(金)に荒尾市立荒尾海陽中学校で、11月28日(火)に荒尾市立中央小学校で、管内英語授業づくりプロジェクト研修を行いました。今年度は、4領域の中の「読むこと」に重点を置き、小・中学校のプロジェクトリーダーの先生方に提案授業を行っていただきました。今子どもたちに求められている力を再確認できた研修となりました。



### 【小学校の先生方からの感想】

- ・自分の伝えたいことが言えるように、基礎→パターンプラクティス→自分の気持ちというように段階的に深めていきたい。
- ・パフォーマンステストを、実際に動画で見たり、資料を見たりできたので分かりやすかった。



### 【中学校の先生方からの感想】

- ・読むことの授業においては、まずは要点にアンダーラインというのをすぐに実践したい。
- ・本文の読み取りの指導は難しさを感じていたので、今日の授業のキープレース探しやマッピングを授業に取り入れてみたいと思った。



## 管内「地域と学校の連携・協働」推進実践交流会～未来へのリスタート！～

【期日及び場所】 令和5年12月13日(水) ながす未来館文化ホール

【参加者】 小・中学校教職員、地域学校協働活動推進員、学校運営協議会等関係者、PTA関係者、市町教育委員会関係者、地域ボランティア関係者等

【内容】 ○研修1：実践発表「学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な取組～主体性をもった子どもの育成～」

長洲町教育委員会統括的な地域学校協働活動推進員 松永光親 氏

地域学校協働活動推進員 田成香代 氏、堀本美由紀 氏

○研修2：パネルトーク「未来へのリスタート～双方向の連携・協働～」

コーディネーター： 山平敏夫 県統括アドバイザー

パネリスト：田成香代 推進員(長洲町)、荒木あけみ 推進員(玉名市) 伊藤麻理 推進員(南関町)

腹栄中学校生徒会、長洲中学校生徒会

○まとめ：熊本県教育長市町村教育局社会教育課 山平敏夫 県統括アドバイザー

- ・活動が目的ではなく、どんな資質・能力を育てるかが大切であること、また、地域課題の解決につながる活動を推進することの大切さをあらためて感じた。
- ・生徒の生の声を聴くことができ、学校を核とした(子供を真ん中にした)新しいコミュニティの在り方について、イメージを膨らます機会となった。
- ・具体的な実践例は、とても参考になった。学校規模や地域の特性は違うけれど、今後の取組の参考にしていきたい。



## 「瞳輝く子ども」

## 「凜とした教職員」

## 「伸びる学校」

### 【管内幼・保等、小、中連携セミナー】

研修内容 7月26日

- 「就学前教育と小学校以降の教育との接続について」（行政説明・グループ演習）
- 「中学校区ごとの幼・保等、小、中連携について～スタートカリキュラムをもとに情報交換～」(グループ協議)

#### ～受講者アンケートから～

- ・「幼・保等の時期から小・中学校へと指導者の願いや思いはつながっていることに気づいた」という発言があり、まさにこれが「連携」であるということ会場全体で共有できた。

### 【道徳教育パワーアップ地区別研修会】

研修内容 8月22日

- 「道徳科の授業づくり」、「発問づくり」(演習1)
- 「道徳科スーパーティーチャーによる模擬授業」(演習2)

#### ～受講者アンケートから～

- ・授業づくりの手順は、学習指導要領解説をもとに児童生徒に学ばせたい内容をしっかり持ったうえで、授業づくりに臨まなければならないことが分かった。
- ・研修2は、教師目線だけでなく子供目線でも考えることができ、的確な発問、教材の提示の仕方、シール使用の意見交流等、とても学びが多かった。

### 【管内小・中学校体育主任研修会】

研修内容 6月6日

- 「学校体育推進上の現状、体育主任に期待すること」(説明)
- 「①熱中症をはじめとする事故防止や体育的活動中におけるけが防止について ②運動する楽しさや喜びを味わわせながら『わかる』『できる』を繰り返すことのできる場づくり(場の設定)について～水泳の授業を通して～」(演習)

#### ～受講者アンケートから～

- ・初めての体育主任で分からないことばかりで不安だったが、他校の先生方からのアドバイスやベテランの先生方でも悩まれていることは多いと分かった。まわりの先生方に相談しながら、組織として頑張っていきたいと思う。
- ・インフルエンサーとして、学校総体で課題を解決し、運動(体を動かすこと)が好きな子供を増やしていくことを再確認できた。



### 【第1回管内人権教育主任研修会】

研修内容 6月15日

- 「人権教育の推進について」(説明・演習)
- 「人権尊重の精神に立った学校づくりに向けて」(班別協議及び発表)

#### ～受講者アンケートから～

- ・「3つのアプローチ」のパンフレットを活用した取組について話し合うことができた。校内研修で生かしていきたい。
- ・他校の先生の考えや実践を聞くことができ、人権集会など工夫した実践につなげられると思う。

#### 【学校訪問を終えて】

6月～11月

地域と一体となった朝の交通指導。子供達が目を輝かせ身を乗り出すような授業の導入。問題解決に向け真剣に話し合う子供達。そして、先生方の是々非々の指導。校長先生を中心とした学校経営の様子、子供達の生き生きとした学びの姿を見せていただきました。本当にありがとうございました。

「共通実践」と「取組の検証」、「機能する組織」をキーワードに、これからも子供達も先生方も充実感のある教育活動を展開していただきますようお願いいたします。

## ～編集つれづれ～

▼息子の剣道の試合を見る機会が多くなった。自分がやっていた競技なので、新たな発見が多い。例えば声援。バスケットボールをやっていた自分にとって、「声を出して応援する」ことは当たり前なのだが、剣道ではいけないことらしい。先日の試合でも、声を出して応援していたら、息子に叱られた。▼「一足一刀の間合い」という言葉がある。それ以上近づけば相手に打たれてしまう。しかしそれよりも遠ければ相手に技が届かない、というぎりぎりの距離のことだ。その距離は人によって違う。相手の「一足一刀の間合い」を避けつつ、自分の「一足一刀の間合い」を探る、その間合いの攻防が見ていて面白い。▼コミュニケーションも同じだと思う。人によって持っている間合いが違う。相手と自分の間合いを考えながら適切なコミュニケーションをとることは、教師同士だけでなく、児童生徒・保護者と教師の間でも必要だ。▼ちなみに私は間合いがやや近すぎる傾向がある。気をつけよう。私のつれあいは間合いが遠すぎる。困ったものだ。しかし、どちらが良い、と言えるものではなく、人それぞれなのだろう。相手や場によって違う、その時々でのコミュニケーションを楽しんでいきたい。